

マジックバンド、竿カバーを活用した 滑り止めの考案

下呂営林署 石田 義男

当署管内の国有林は、南北60kmに分散している。萩原担当区部内は最北部に位置し、標高 800 m から 1,650 m に及んでいる。このうち 1,000 m から 1,500 m の林地は約 851 ha で全体の72%である。この他行政界に接続している、標高の高い官行造林地が約 460 ha あり、これらの林地が主な作業地となっている。積雪は管内では一番多く、作業地の平均積雪量は 1 m 前後である。

冬期作業は主として除伐と枝打ちであり、積雪のため足元が不安定で、枝打斧や、除伐鎌の柄は雪が凍り付きよく滑る。又、柄についた雪は拭い取っても直ぐ雪が付着する。

このため、手が滑り「ハッと」したことが度重なり、冬期の安全懇談会では話題の中心となっている。これを防ぐ「滑り止め」の方法について、何かよい方法はないか検討し、市販のマジックバンドと竿カバーを使用した滑り止めに考案し、試用した結果を報告する。

1. 冬期作業の問題点

道具の柄に雪が付着し、又、濡れた柄が凍結し、手が滑り「ハッと」した事例が多く発生している。

2. 滑り止めの製作

(1) 枝打斧、鉋の柄用

- ア 市販のマジックバンドの「凸」の面に木工用接着剤を均一に塗布する。
- イ 道具の柄にマジックバンドを接着して、ビニールテープで緊縛し完全に乾燥する。
- ウ おおむね一晩で乾燥するので、ビニールテープを取りはずす。

(2) 除伐鎌用

- ア 市販の物干し用の竿カバーと、沸騰した湯を準備する。
- イ 柄に竿カバーを被せせる。
- ウ 沸騰した湯を刃先の方からかけ、竿カバーを収縮させ柄に密着させる。

滑り止めの製作は、降雨日、作業の手待ち時間を活用して行った。取り付け時期は、向寒時の1月の上旬に行った。

3. 結 果

- (1) 雪中の作業でも柄に雪が付着しなくなった。

- (2) 柄がぬれても、凍結せず、滑りによる「ハット」した事例が無くなり、安全作業が向上した。
- (3) 枝打ち作業は厳寒期を外ずして実行しているが、間々、降雪時でも作業をする場合もあり、作業条件の悪いときでも、柄に滑り止めを付けたため、雪は別に支障とならなくなった。
- (4) 少ない経費と時間で簡単にできる。
 - ア 経費は、マジックバンドを使用した場合、1丁550円、竿カバーを使用した場合、1丁130円と安価でできる。
 - イ 時間は、20分から30分と短時間でできる。
 - ウ 耐久力は、マジックバンドを使用した滑り止めが、約2.5か月間で、1冬1回の取付けで十分である。竿カバーを使用したものは、約1年間で、1回取り付けでよい。又、濡れても滑べらないので、1年間を通じて降雨日などの作業も安全にできるようになった。

私たちは、今後一層チームワークづくりに心がけ、全員で一丸となって創意工夫をし、現場での改善を図り、安全第一で事業に取り組んでいきたいと思っている。